2019年12月22日

福音書からのメッセージ

夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。
（マタイによる福音書1章19節）

聖書には、たびたび「恐れ」という言葉が出てきます。今日の場面では、「恐れず妻マリアを迎え入れなさい」と主の天使がヨセフに語り掛けました。

ヨセフは、イエス様の母になるマリアと婚約していました。婚約の期間は一緒に住むことはできず、当然子どもが生まれるはずもありません。ところがマリアがある日、ヨセフの元に来て言うのです。「わたしは聖霊によって身ごもりました」と。聖書はこのときのヨセフのことを、このように書いています。

夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

あまりにもあっさりとした記述です。しかしヨセフの心の中には、様々な思いが渦巻いていたことでしょう。彼は正しい人でした。正しい人とは、律法で決められたことに忠実であることを意味します。では彼は、マリアを受け入れることができたでしょうか。律法に照らし合わせると、マリアは姦淫の罪を犯したことになります。とても重い罪です。ヨセフは正しい人だったのでひそかに縁を切ろうと決心した。この言葉だけを読むと、とても冷たい印象を持ちます。しかしこう考えることもできます。ヨセフはマリアとその子を守るために、どうしたらいいかと悩んだ。悩んだ末に出した結論が、ひそかに縁を切るということでした。

しかし、神さまのご計画は、ヨセフの思いをはるかに超えたものでした。神さまは主の天使をヨセフの夢の中に遣わして、こう伝えます。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである」。ヨセフは恐れました。目の前が真っ暗になっていたと思います。しかしその恐れの中に、神さまの大いなるみ業があらわれたのです。

わたしたちはもうすぐ、クリスマスを迎えます。でもどうでしょうか。喜びだけがすべてを覆っているでしょうか。そうではないと思います。不安や恐れ、苦しみや悲しみだってある。そういう方も多いのではないでしょうか。

幼稚園の園庭に、色鮮やかなイルミネーションが飾られています。普段は全く見えないけれども、薄暗い朝や夜には、小さな明かりが驚くべき光に、まばゆいばかりの明るさになります。暗闇の中だからこそ、光に包まれる。わたしたちのこの心がたとえきれいでなかったとしても、素晴らしい光を与えてくださる。それがクリスマスなのです。

恐れるな。恐がらなくていい。大丈夫。わたしがいつも共にいる。その言葉が、わたしたちの心の中にも届いているでしょうか。神さまが共におられるという約束が、わたしたちの耳にも聞こえているでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/